

(様式第4号)

第4回 上田市子ども・子育て会議 会議概要

| | |
|-------------|---|
| 1 審議会名 | 上田市 子ども・子育て会議 |
| 2 日時 | 令和1年9月26日 午後1時30分から |
| 3 会場 | ひとまちげんき・健康プラザうえだ 2階 多目的ホール |
| 4 出席者 | 金山会長、若林副会長、浅川委員、飯島委員、金委員、下村委員、高井委員、瀧本委員、土屋委員、中澤委員、橋詰委員、畑委員、丸山委員、宮下委員、山嵯委員 (欠席委員) 安藤委員、佐藤委員、滝澤委員、寺尾委員、保月委員 |
| 5 市側出席者 | 小林健康こども未来部長、山賀子育て・子育て支援課長、宮澤保育課長、遠藤母子・精神保健担当係長、川口母子・精神保健担当係長、間宮保育担当係長、下林保育担当係長、堀内放課後こども育成係長、宮下障がい者支援担当係長、小山子育て・子育て支援担当係長、高橋子育て・子育て支援担当係長、渡辺子ども家庭福祉担当係長、小宮山発達相談センター次長、半田主査 |
| 6 公開・非公開 | <input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ <input type="checkbox"/> 一部公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開 |
| 7 傍聴者 | 0人 記者 0人 |
| 8 会議概要作成年月日 | 令和元年10月31日 |

協議事項等

- 1 開 会 (山賀子育て・子育て支援課長)
- 2 あいさつ (小林健康こども未来部長)

3 会議事項

(1) 委員からの意見について

- ・事務局から資料の確認、資料に基づく説明 (事前資料1)
- ・質疑・御意見

(委員)

10番目上田市の子育て支援等の課題や検討事項「育児中であっても就労について相談できる場や職場復帰に向けて母親同士で語りあえるような機会があると良い。」に対して地域雇用推進課からの回答「雇用担当部署における設置は現在予定していない。」について。
マザーズコーナーがあるということだが、他の地域では子育て支援拠点の中で職場復帰のためのママ達の自助グループが出来たり、準備講座が開かれたり、またはこれから子どもが保育園・幼稚園に入るような時期に、これから仕事を探そうと思っている人が広場で企業とマッチングができるような取り組みが行われている。また今新しく子育て支援拠点を作ろうとしている自治体でお母さん達が子どもを遊ばせながら、そこで仕事ができる場所をひろばの中で作っているという自治体もある。ハローワークに出かけて行くというよりも、いつもの身近な広場で情報とふれ合えるということができているのが大事になってきていると感じているので参考にしてほしい。

(事務局)

大事な視点だと思う。検討して計画の中に入れられたらと思う。

(2) 第2次上田市子ども・子育て支援事業計画について

- ・事務局から説明（事前資料2・3）
- ・質疑・御意見

(委員)

事前資料3の3ページ「市立産婦人科病院の医師と助産師の確保を図る」について。

正常分娩は産婦人科病院、異常分娩は信州上田医療センターというやり方では間に合わない病気もある。そういう方に対してどういう医療をするかということがガイドラインにある。

産婦人科病院で働く先生方に対して、ガイドライン遵守ができる利用環境を示さなければ医師は来ないということを理解してほしい。

それを遵守できて、その上で赤ちゃんに優しくて良いお産ができるのを目指す、というようにすることが地域のためになる。

(事務局)

ご指摘重く受け止めさせていただく。市議会からも現状の病院の実態等について申し上げたうえで厳しいご指摘も頂戴している。

地域の拠点病院の信州上田医療センターと産婦人科病院、民間の先生と連携を取りながら安心した安全なお産ができる地域であることをいかに守っていくかということが大きな取り組み課題になってくると思う。引き続き取り組んでいく。

(委員)

6ページ「外国につながる幼児への支援」【保育課】末尾のところに「配布書類の多言語化の推進」と記載があるが、書類だけ整えてもそれに対応する人が言語に対応できなければ困る。人的な面での支援、配慮、背景がどうなっているか伺いたい。

34ページ最後【子育て・子育て支援課】「雨天でも楽しめる施設の整備の要望がある」について回答するものが今回の施策なり事業の中の内容に含まれているとしたらどういうものを指しているか伺いたい。

(事務局)

保育課：現在書類的には一切外国語を用意していない状況なので掲載させていただいた。

通常の窓口等での受付では利用者の方が連れてきていただいている部分に甘えているという現状。そういう方がいない人については人権男女共生課の外国語通訳をする職員と一緒に同行してもらい対応している。ただ通訳の人数も限られており、すべての言語を話せるわけでないという問題もあり、スマホで翻訳しながらやっているというケースも極まれにある。

子育て・子育て支援課：雨天でも気軽に楽しめる施設の整備の要望、確かに要望としてあるということをお伝えさせていただき、それに呼応する何か新しい物を整備する予定が今現状としてない状況。子育てひろば等の利用年齢が就園前までなので、就園して以降、小学校の低学年以下のお子さんが

いる保護者にそういう場所がないという要望が高い傾向があると捉えているので、どうやって反映させていくか、すでにある施設の活用や事業の周知などを含めて考えていきたい。

(委員)

上田はもともと外国人の方が多いが、法律の緩和もあって外国人の就労が今後も増えていくことが予想されるので、市の中での融通だけでは難しくなるとしたら、対応できるような計画なり施策の準備をしていただくよう希望したい。

(委員)

雨天の施設について、本当に場所がないという事実もあるかもしれないが、実は身近な所に遊びに行かれる公園があったとしても、情報として持ってないと活用できない。赤ちゃんの時には子育て支援情報がいろいろ入ってきやすいが、少し大きくなった子どもと近くに良い遊び場があるというような情報発信と受け止めが充実してくると、遊び場がないという実感が変わってくるかもしれない。

(委員)

雨天で楽しめる場所について、大星・神科の子育てひろばには大きな体育館がある。土日は使っていないようなのでそこを開放していただきたい。就学前の子どもはただ走り回れる広い場所が欲しいという声が多いので、今あるものを有効利用して使えると非常にありがたい。

県外へ里帰りで乳幼児の予防接種を受けた時、その実費を全額負担しなければいけないということについて、今後見直しをする必要があるとお返事をいただいたが、これについては補助がでるようになると考えても良いか。

(事務局)

他市町村の状況なども参考させていただきながら前向きに検討している。

(委員)

検討中である、というような今の状態が文章の中にひとつも入っていないと忘れられてしまいそうで心配になる。よろしくお願いします。

(委員)

児童館、児童センターは乳幼児から18歳まで活用できる施設になっているはずだが、留守家庭児童対策のニーズに答える場所になってしまっていて、乳幼児や中高校生の子ども達の居場所になっていないことが課題と感じている。

学童保育の子どもたちが他の子どもと遊ぶ交流の場として大切な場所でもあり、居場所がなくて大型商業施設で溜まっている中高校生も児童館、児童センターが子どもの居場所として生きてくると良いのではと思う。

(3) 上田市私立幼稚園副食費の徴収に係る補足給付事業の実施について

- ・事務局から説明（事前資料4）

実施要項が定められたことにより、第1次子ども・子育て支援事業計画の「経済的支援」に、事前資料3の29～30ページにある「実費徴収に係る補足給付事業」の記載を追加することに了承依頼。

(4) その他

部会会場説明
ご意見等事務局へ

4 事務連絡

次回日程内容確認

5 部会

6 閉会